

## 川湯中学校で硫黄山(アトサヌプリ)の噴火を想定した避難訓練を実施

### いざというときに備えた訓練が大切

川湯中学校(武山昇校長)で9月3日、硫黄山の噴火に備えた避難訓練が行われました。

訓練の設定は「硫黄山の水蒸気噴火により、川湯温泉地区の住民が既に避難していた。さらに規模の大きな噴火が起きることを予期しつつ授業を継続していたところ、本格的な噴火の兆候が始まり川湯温泉街全域に避難指示が発令。川湯中学校は学校単位で、野上峠～裏摩周～萩野経由で弟子屈中学校へ避難する」といったものです。訓練では、伊藤賢次教頭の車両が道路状況を確認しつつ先行し、残りの職員と生徒は教職員の車両に分乗し避難。温泉街から約3キロ北側にある国道391号沿いの駐車場帯で合流し、全員の安全を確認しました。避難開始指示から全員が避難完了するまで約7分と、安全かつ冷静に避難することができました。

訓練後、武山校長が「私たちは、硫黄山ができたことにより温泉ができて自然の恵みを受けているが、広島や礼文島のような大きな自然災害がいつ発生するか分からない。普段から訓練をして、被害を未然に防止することが大事」と講評しました。

生徒たちは「最初は何をしてよいのか分からなかったが、やってみて避難の要領を理解することができた。避難準備を習慣化するためのよい訓練だったと思う」と話していました。



講評を述べる武山校長(右)と教職員の車に分乗して避難する生徒たち(左)

### 町でも硫黄山噴火に備えていきます

硫黄山は現在、盛んに水蒸気を吹き上げているものの、安定した状態が続いています。「直ちに噴火する可能性は低い」と言われていますが、約1,500年前に現在の溶岩ドームが形成された後、最近では約300～500年前の水蒸気噴火により『熊落とし火口』が形成されています。

2000年(平成12年)3月末には、洞爺湖の南側にある有珠山が大噴火しました。しかし、事前の準備が万全であったため、全員が安全に避難することができました。

硫黄山についても、噴火を想定した具体的な準備が必要です。町では来年春をめどに、気象庁と連携して5段階の噴火警戒レベルに応じた避難要領(避難準備～避難)を具体化し、防災計画(火山防災対策)改定の作業を進めていきます。

※溶岩ドーム/非常に粘性の高い溶岩でできていて、大爆発ではなく、大小の噴火を繰り返しながら、ゆっくりと山の形を変形させて、現在に至っています。この形状になるまでに、数年から数十年はかかっていると考えられます。

問い合わせ先/役場総務課情報防災係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 2 (課直通)

# 総合防災訓練を行います

防災ワンポイントコーナー

日時/10月29日(水) 10時～13時

場所/弟子屈中学校体育館・同校敷地内

町では「役場～警察署～消防署～弟子屈中学校～道の駅摩周温泉」の一带を防災拠点として整備しました。弟子屈中学校は、太陽光発電により停電時も体育館の照明・暖房の電力が確保できるほか、同校に隣接する学校給食センターも、屋外にある非常用発電機により停電時でも給食活動を継続できるようにしました。

さらに、同校近くの旧給食センターを防災備蓄倉庫として改修。非常用食料・飲料水や毛布などの防災備蓄品のほか、可搬式発電機を保管しています。

これらの防災拠点を活用して、弟子屈町総合防災訓練を行います。震度6弱の弟子屈直下型の地震が発生したとの想定で、警察・消防・自衛隊やその他の協力団体・企業の協力のもと実施。実施日には、消防のスピーカーで訓練を予告します。また、訓練の直前にも、あらためてご連絡します。

お近くの方は、ぜひ訓練にご参加ください。また、多くの方の見学をお待ちしています。



### 訓練の概要

時間	場所	内容	参加者
10:00～	憩いの広場	訓練開始式	全訓練参加機関 (株)大栄電業(非常用発電機設置)
10:15～	体育館とその周辺	避難所開設～避難者の輸送～避難者の受け入れ	中学校近隣の住民、役場、弟子屈警察署、陸上自衛隊第27普通科連隊
10:40～	体育館	訓練展示・体験(段ボールベッド組み立て、災害用電話などの説明、AEDによる心肺蘇生など)	近隣の住民(避難者) 防災関係機関・企業
11:25～	体育館入り口広場 憩いの広場	保存水袋による給水体験 災害用トイレの説明 炊き出し準備の説明・展示	役場、陸上自衛隊第27普通科連隊 釧路開発建設部弟子屈道路事務所 北海道LPガス協会釧路支部
11:30～	憩いの広場	倒壊家屋からの救助訓練展示	弟子屈消防署
12:00～	憩いの広場	訓練終了式	全訓練参加機関
12:10～ 13:00	体育館	非常食の試食 災害用電話の体験など	弟子屈町女性団体協議会 NTT、NTTドコモ